

平成 24 年 9 月 24 日

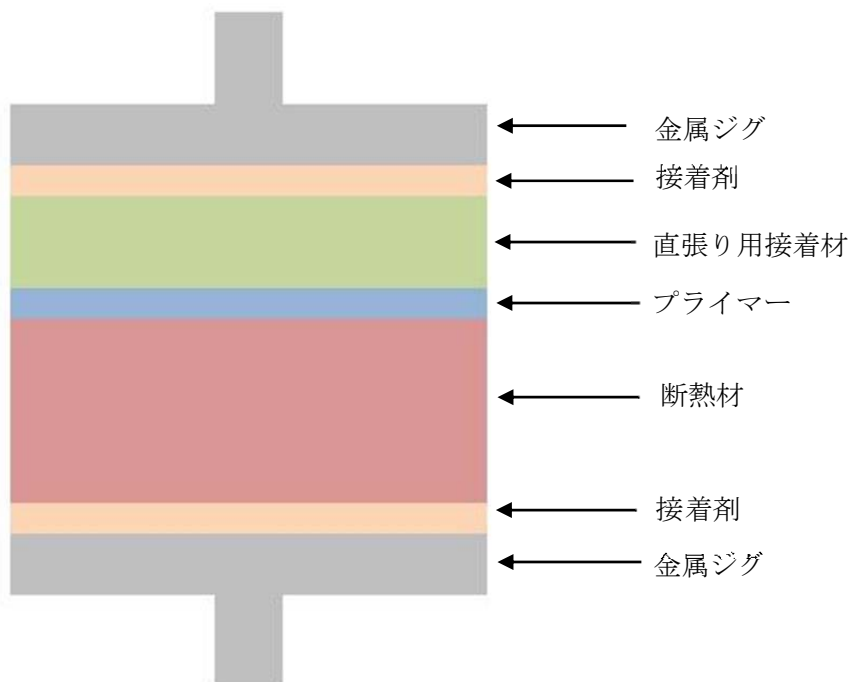
接着強さの測定方法（現場発泡ウレタンフォーム／プライマー／プラスター）について

現場発泡ウレタン下地に直貼り用接着材を施工する場合の接着試験について、建築物断熱用吹き付け硬質ウレタンフォームの JIS A9526 記載の「接着強さ」に準拠した測定方法を下記に示しました。

#### 記

**接着強さ** 接着強さの測定は、次による。

- a) **試験片** 底面が  $50 \pm 1\text{mm}$  の正方形で断熱材の厚さが  $20\text{mm}$  程度の試験片の表面（スキン層）にプライマーを塗布し（塗布量はプライマー製造所の指示による）、室内にて 24 時間以上養生する。直張り用接着材を平均  $10\text{mm}$  塗り付け（コテを使用して平滑性をだすこと）、室内にて 24 時間以上養生後、 $40^\circ\text{C}$  の乾燥器中で 120 時間以上乾燥する。図に示すように試験片の両面に接着剤を用いて、底面が  $50 \pm 1\text{mm}$  の正方形の金属ジグを取り付ける。金属ジグは試験片に取り付けられるように、フックなどが付いたものを使用する。試験片の数は 3 個とする。



- b) **試験方法及び計算** 試験片を  $0.2\text{kN}/\text{min}$  の荷重速度で引っ張り、破壊荷重を求め、接着強さを次の式によって算出する。

$$\text{接着強さ (kPa)} = F/A \times 10^3$$

ここに、  $F$  : 破壊荷重 (N)  
 $A$  : 試験片の断面積 ( $\text{mm}^2$ )

注 断熱材の破壊又は断熱材と直張り接着材のはく離時の荷重を破壊荷重とする。

c) **接着強さの推奨値** JIS A9526 に記載されている接着強さの値を最小値として推奨する。

A 種 1 80 (kPa)

以上